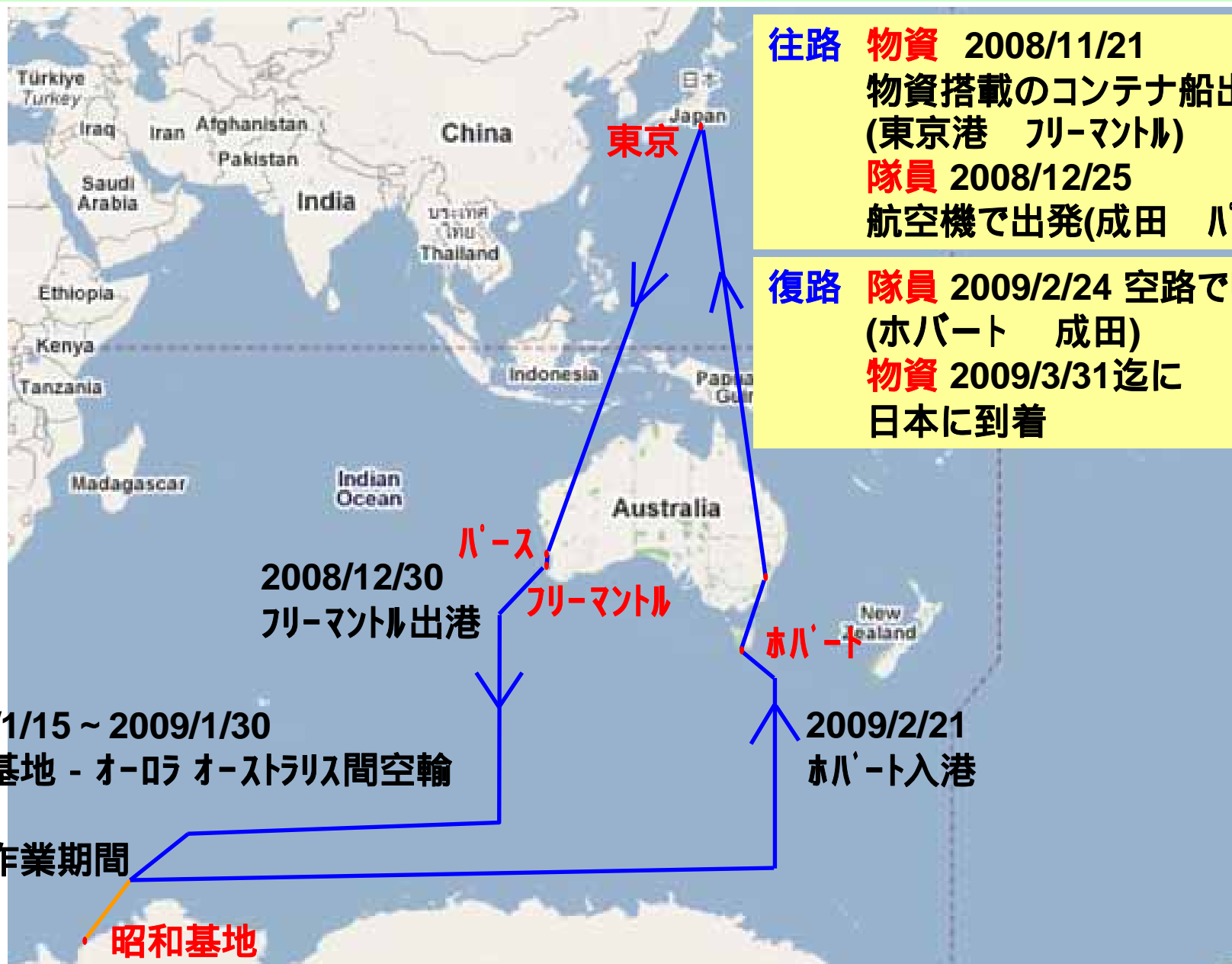


第50次隊輸送計画概要

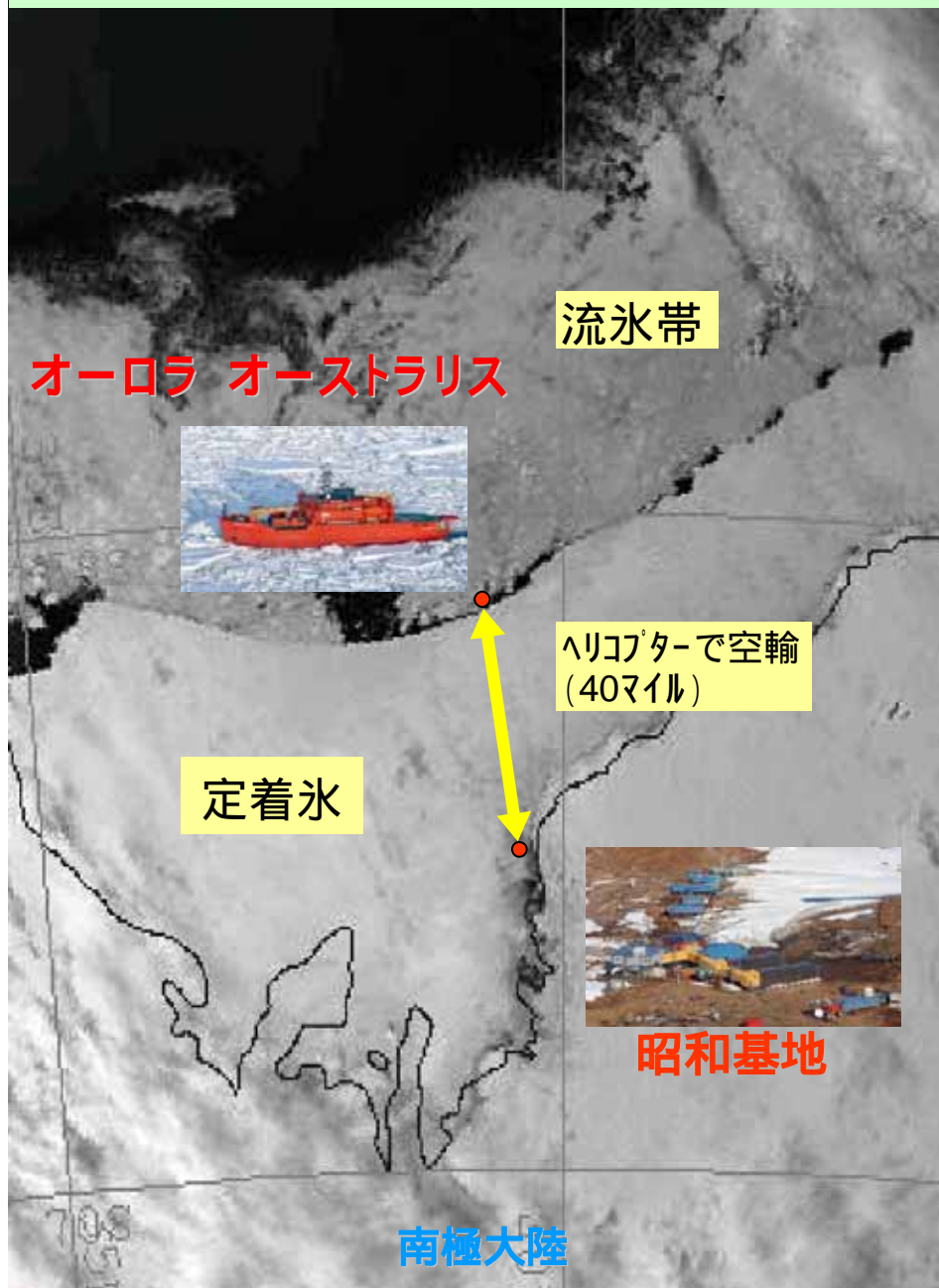
資料6
南極地域観測統合推進本部
観測事業計画検討委員会第13回
H20.11.13



往路 物資 2008/11/21
物資搭載のコンテナ船出航
(東京港 フリーマントル)
隊員 2008/12/25
航空機で出発(成田 パース)

復路 隊員 2009/2/24 空路で帰国
(ホバート 成田)
物資 2009/3/31迄に
日本に到着

物資の空輸（定着氷縁～昭和基地）



昭和基地から約40マイルの定着氷縁から3機のヘリコプターによる空輸を実施する。

輸送用ヘリコプターの仕様



S76 (2機使用)
胴体全幅 2.13m
胴体全長 13.22m
全高 4.41m

80マイルの距離を機内輸送なら915kg、
吊り下げ輸送なら800kg輸送可能（基本は機内輸送）



AS350B2 (1機使用)
胴体全幅 1.80m
胴体全長 10.93m
全高 3.14m

80マイルの距離を吊り下げ輸送で600kg輸送可能

第50次隊の物資量概算

物資は、東京港の倉庫でコンテナに収納し、コンテナ船でフリーマントルまで輸送、フリーマントルでオーロラ オーストラリスに搭載する。

	物資重量	容積	備考
越冬隊 (28名)	約74ton	約275m ³	観測用機材、バルーン、食料品、薬品、図書、セメント、スチールコンテナ、ガスボンベ
夏 隊 (12名)	約4ton	約21m ³	船上観測機器、観測用機材、文具
合 計 (40名)	約78ton	約296m ³	物資はすべて20フィートコンテナに収納する。



20フィートコンテナ

外寸 6058x2438x2591mm

内寸 5890x2350x2390mm
(5486x2270x2234mm)

自重 2.3 ton(2.8ton)

最大総重量 20ton ~ 30ton

()内は保冷コンテナ

20フィートコンテナ数：18台

食料品用保冷コンテナの冷凍コンテナ(-0)
2台,冷蔵コンテナ(+5)1台,冷房コンテナ
(+15)2台を含む。

オーロラ オーストラリス



- ・ オーストラリア初の砕氷型船舶
- ・ P & O社が所有し、オーストラリア政府が傭船契約によって南極観測に使用している。
- ・ 第50次隊の往路、第50次夏隊と第49次越冬隊の復路の輸送を担当する。

全長	94.91m
幅	20.30m
深さ	13.25m
排水量	7,880 t
軸数等	1軸1舵
最大速力	16.8ノット(30km/h)
砕氷能力	厚さ1.23mを2.5ノット(4.6km/h)で砕氷
竣工	1990年

